

## 令和6年度 第二勝田保育園 保育士の自己評価について

保育所保育指針では、保育の質と向上を図るため、「保育計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ、当該保育園の保育の内容等について、自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない」ことが明記されています。当園では組織として自己評価に取り組みましたので、公開いたします。

<評価について> ※以下の基準で行っています。

設問ごとに「十分にできている～どちらかと言えばできている」と回答した割合が

90%以上…A

80%以上…B

80%以下…C

### <保育について>

	評価項目	結果
園の基本姿勢	①保育理念及び目標と保育所保育指針の関係を理解し、指導目標・計画を立てている。	A
	②子ども一人ひとりの人格を尊重して保育を行うと共に、保護者の苦情などに対し、その解決を図るように努めている。	A
総則	①子どもの生活リズムを大切にし、健康、安全で情緒の安定した生活が出来る環境や、自己を十分に発揮できる環境を整えている。	A
	②子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るための援助や関わりを持っている。	A
	③指導計画においては、保育所の生活における子どもの発達過程を見通し、子どもの実態に即した具体的なねらい及び内容を設定すると共に、自らの保育実践を振り返り、自己評価に努めている。	B
	④「資質・能力」の3本柱と「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」10項目を知っている。	B
保育の内容	①乳児保育に関わるねらい及び内容を理解し、一人ひとりの発達及び発達状態や健康状態についての適切な判断に基づく保健的な対応を行っている。	A
	②1歳以上3歳未満児の保育に関する5領域の意味、ねらい及び内容について知っている。	A
	③3歳以上児の保育に関する5領域の意味、ねらい及び内容について知っている。	C

	④子どもの国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるようにし、また、子どもの性差や個人差にも留意しつつ、固定的な意識を植え付けることがないようになっている。	A
健康及び安全	①一人ひとりの子どもの健康の保持及び増進や感染症その他の疾病の発生防止に努めている。	A
	②子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や食の循環・環境への意識、調理する人への感謝の気持ちが育つように、保育所の特性を生かした食育を行っている。	A
	③保育中の事故防止のために、子どもの心身の状態などを把握したり、施設内外の安全点検に努めるなど、全職員の共通理解や体制づくりを図り、不測の事態に備えて必要な対応を行っている。	A
	④災害の備えとして、日頃から安全環境の整備に努め、定期的に避難訓練を実施するなど、必要な対応を行っている。	A
子育て支援	①保育所の特性を生かした子育て支援を行うと共に、個人情報観点から知り得た事柄の秘密を保持している。	A
	②保育所を利用している保護者に対する子育て支援を行い、保護者の状況に配慮した個別の支援がとられている。	A
	③地域の保護者等に対する子育て支援を、積極的に行うように努めている。	C
職員の資質向上	①保育所内外の研修等を通じて、専門性を高めるため、必要な知識及び技術の取得、維持及び向上に努めている	A
	②保育所全体としての保育の質の向上を図っていくために、職場内での研修の充実が図られ、園内研修や外部研修にも参加している。	A

## <評価>

	評価
今年度の評価点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の理念や方針について、共通理解を深められるように時間を設けている。全職員が理解を深められるよう継続していく。</li> <li>・保育を開くことや、保護者へ向けての情報発信について、連絡アプリの連絡帳やアルバム機能を開始する。写真や動画を利用し、より伝わりやすくなったと感じる。これまで進めてきたドキュメンテーションに代わる方法としても活用され、環境準備等に時間を使用することが出来ている。</li> <li>・3～5歳児は異年齢で過ごしているが、意図的に園全体で交流を深める機会を作っていた。0歳児と5歳児の交流では、5歳児は少人数での参加となるが、0歳児の姿に、自らの姿を思い起こしてみたり、実際はどうだったのか気になる様子もあったようだ。これまでの経験とその場での気づきが、より関わりを深められるきっかけになるのではと感じる。</li> <li>・園内研修では、保育雑誌から個々に興味を持つ内容の記事を持ち寄り、その内容について個々の想いを伝え合いながら話し合いを進めていった。小グループで行い、新たな気づきやこれからの保育に活かしていける時間となったのではないかと感じた。生活展にて、取り組んできたことを掲示し、保護者へ向けて理解を深められるよう行った。</li> <li>・子育て支援事業「ひだまり」。今年度は園庭に加え、ホールでの開催を行う。参加組数は年度初めは数組だったが、徐々に増えて10組を超える日もあった。参加者同士で交流する様子も見られ、地域の中での保育所としての役割を感じる。</li> </ul>
課題と改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育について気になることや感じていることを、職員間で確認できるような働きかけを増やす。</li> <li>・保育所保育指針の内容やモンテッソーリ教育について等、より理解を深めていく。</li> <li>・交流を深めていくことと同時に、子どもだけでなく職員が互いの環境や関わりに対しての気づきが生まれ、園全体で学びを深められるようにしていく。</li> <li>・昨年に引き続き、伝え合うこと・分かち合うことを意識し、子どもや保護者、職員が育ちあえる場にしていく。</li> </ul>